第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（実践報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	失禁による尾骨周囲の皮膚の浸軟予防に女性用尿漏れナプキンの使用が効果があった事例
演者名	和田　陽子
所属	公益社団法人岩手県看護協会立盛岡訪問看護ステーション

目的：　在宅療養において介護のマンパワー不足のため、失禁による臀部の皮膚障害を悪化させてしまうことがある。施設入所中で ADL が全介助の寝たきりの８８歳女性への失禁ケアに対して臀部の浸軟予防の方法を明らかにする。

実践内容：　初回訪問時、尾骨右側に 5×5ｍｍの潰瘍があった。臀部の皮膚にたるみがあり、潰瘍の部位は側臥位になると臀部の右の皮膚と左の皮膚の間に隠れてしまう状態にあった。潰瘍周囲の皮膚は角質が白く浸軟して弾力性がなく硬い。ステロイド配合皮膚潰瘍治療薬、後にアズレン含有皮膚疾患治療薬を塗布していったん治癒してもすぐ再発した。そこでケアの方法を見直し尿パットの当て方を確認し、臀部全体には撥水性皮膚保護軟膏を塗ること、日中は 2 時間毎観察し失禁時はおむつ交換をすること、ベット上・車椅子上での除圧マットを使用することを職員に依頼して経過をみた。しかし一進一退の状況で治癒しなかった。その後真菌感染を合併したのを機に再度ケアの方法を検討し、真菌に対する治療の他に皮膚のたるみを補正し、皮膚と皮膚の密着する部分に中表二つ折りにした女性用尿漏れナプキンを臀裂にはさみ尿の吸収を促した。

実践効果：　潰瘍は治癒して皮膚の浸軟が軽減した。経口摂取量が徐々に減少し誤嚥性肺炎を併発して栄養状態が低下しても潰瘍の発生がなかった。

考察：　この事例で臀部の皮膚のたるみがあり体位によって皮膚形状が変化することを観察しその状態に適したケア計画を実施したこと、湿潤状態を軽減するため尿漏れナプキンを皮膚密着部にはさんだこと、潰瘍が治癒した後も撥水性皮膚保護軟膏を併用したことで浸軟を予防できた。また介護職の方に皮膚障害の原因とケアの根拠を説明し協力していただいたこともよい結果を導いた要因と考える。